

第4期医療費適正化計画 PDCA管理様式

1. 目標に関する評価

(1) 住民の健康の保持の推進に関する目標

① 特定健康診査の実施率に関する数値目標

2023年度 (計画の足下値)	第4期計画期間					
	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度 (目標値)
65.9%						
目標達成に必要な数値	66.6%	67.3%	67.9%	68.6%	69.3%	70%以上
2024年度の 取組・課題	<p>【取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保険者協議会の取組みとして、特定健康診査の周知等を目的に、ポスターの作成を行い、医療機関等をはじめ、公共施設等においても掲示を依頼し広く周知を行った。 ・市町村国保の特定健診の実施率向上に向けた取組みとして、効果的な特定健診受診勧奨手法を探るため、モデル市町においてPFSを活用したモデル事業を実施し、成果のあった手法については他市町村への共有も図った。また、圏域（厚生センター（保健所）単位）においては連携会議を開催し、圏域の課題に応じた取組みの検討や、地域の医療関係者との連携、及び地域保健・職域保健との連携推進に関する検討を実施した。 <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>【課題】</p> <p>本県の特定健康診査実施率は全国上位であるが、目標値には達しておらず、引き続き特定健診の実施率向上に向けた取組みが必要である。</p>					
2025年度以降の改善について	特定健康診査実施率の向上のため、引き続き、医療保険者や市町村等における課題や取組みの把握を行い、課題に応じた取組み支援や好事例の横展開を行う。					

② 特定保健指導の実施率に関する数値目標

2023年度 (計画の足下値)	第4期計画期間					
	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度 (目標値)
29.9%						
目標達成に 必要な数値	32.4%	34.9%	37.5%	40.0%	42.5%	45%以上
2024年度の 取組・課題	<p>【取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内の特定保健指導実施者の質の向上を目的とした、健診・保健指導の研修ガイドラインを踏まえた研修会等を開催し、保健指導のスキルアップに繋げた。 ・市町村国保において、各市町村で実践している特定保健指導の実施率向上に向けた取組みを共有し、好事例の横展開を図った。また、成果に繋げる特定保健指導のノウハウ習得に向けた研修会を開催し、保健指導実施者の資質向上を図った。 <p>-----</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本県の特定保健指導実施率は全国平均を上回っているが、目標値には達しておらず、引き続き特定保健指導実施率の向上に向けた取組みが必要である。 					
2025年度以降の改善について	引き続き、特定保健指導の円滑かつ効果的な実施に向けて、保健指導実施者向けの研修会等の開催を行う。					

③ メタボリックシンドロームの該当者及び予備群の減少率に関する数値目標

2023年度 (計画の足下値)	第4期計画期間					
	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度 (目標値)
25.0%						
目標達成に必要な数値	25%以上	25%以上	25%以上	25%以上	25%以上	25%以上
2024年度の 取組・課題	<p>【取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市町村国保においては、成果に繋げる特定保健指導のノウハウ習得に向けた研修会を開催し、保健指導実施者の資質向上を図った。 ・県公式スマートフォン歩数計アプリ「元気とやまかがやきウォーク」を使用した健康ポイント事業を実施し、アプリを使用した県民の運動習慣定着を図るため、県内の保険者等への周知を行った。また、メタボリックシンドロームや生活習慣病リスクを高めるといわれる睡眠不足等の解消を図る取組みや野菜摂取を促進する取組み等を実施した。 <hr/> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メタボリックシンドロームの該当者及び予備群の減少率は増加傾向にあり、目標値に達しているが、メタボ該当者及び予備群者の割合は全国より高く推移している。(R5年度：全国28.8%、富山県30.2%) ・メタボリックシンドローム対策の主軸となる特定保健指導がより効果的に行われるように保健指導の質向上に向けた支援を行うとともに、望ましい生活習慣の普及に向けた取組みが必要である。 					
2025年度以降の改善について	特定保健指導の効果的な展開のため、保健指導実施者に対し、成果に繋げるための保健指導スキルの向上支援を行う。					

④ たばこ対策に関する目標

<p>目標</p>	<p>R14年度目標【富山県健康増進計画(第3次)】 成人の喫煙率：男性21%、女性2% 望まない受動喫煙のない社会の実現</p>
<p>2024年度の 取組・課題</p>	<p>【取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・喫煙が健康に及ぼす影響についての正しい知識を普及するため、世界禁煙デーや禁煙週間に併せたキャンペーンを実施した。 ・20歳未満の者の喫煙防止教育として小中高校において健康教育を実施した。 <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・20歳未満の者に対する喫煙防止を働きかけるとともに、企業や団体等と連携し、喫煙が与える健康影響に関する普及啓発を行う必要がある。
<p>2025年度以降の改善について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国の受動喫煙対策を踏まえ、望まない受動喫煙のない社会の実現を目指し、現状把握を行うとともに効果的な取組みについて検討・実施する。

⑤ 予防接種に関する目標

目標	接種率向上
2024年度の 取組・課題	<p>【取組】 各市町村のインフルエンザや肺炎球菌ワクチンなどの定期予防接種の実施状況及び実施計画の調査を行い、とりまとめた結果を情報還元することにより、市町村間の連携を支援した。また、インフルエンザ等の感染症の発生動向調査の情報を公開し、普及啓発や医療関係者との連携、市町村間の広域的な連携の支援等に取り組んだ。</p> <hr/> <p>【課題】 引き続き左記の取組みを継続していく必要があることが分かった。</p>
2025年度以降の改善について	引き続き、県内市町村に対し定期予防接種の実施状況・計画の調査実施及び情報還元、感染症発生動向の情報の公開などについて、着実に実施していく。

⑥ 生活習慣病等の重症化予防の推進に関する目標

<p>目標</p>	<p>R14年度目標【富山県健康増進計画（第3次）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・血糖コントロール不良者の減少（HbA1cが8.0%以上の者の割合）：現状値以下 ・糖尿病の合併症（糖尿病性腎症）の減少（糖尿病性腎症による年間新規透析導入患者数）：減少する ・高血圧者の減少（40歳～74歳の高血圧（収縮期血圧140mmHg）の者の割合）：14.2% ・収縮期血圧値の平均値の低下（40歳～74歳の収縮期血圧値の平均値）：低下する ・脂質（LDL）高値の者の減少（40歳～74歳のLDLコレステロール160mg/dl以上の割合）：男性8.6%、女性9.6%
<p>2024年度の 取組・課題</p>	<p>【取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正しい知識を県民に普及啓発するため、糖尿病、慢性腎臓病、循環器病に関する県民向けの講演会を実施。 ・富山県糖尿病性腎症重症化予防プログラムの円滑な実施に向け、保健指導の資質向上を図る研修会を実施。 ・かかりつけ医の生活習慣病の重症化予防に対する理解を深め、かかりつけ医と専門医による医療連携体制を推進することを目的とした研修会を開催。 ・糖尿病においては、重症化予防・合併症予防への取組みとして、診療のポイント等をまとめたかかりつけ医向けリーフレットを配布。 <hr/> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣病は生活の改善により重症化予防が可能であるが、一部の患者で、疾患や治療への不安、理解不足、経済的な理由等から、未治療や通院中断となる場合があるとされている。 ・医療側においても、複雑化する治療の管理や副作用医療費への懸念、チームアプローチの不足等から、治療薬の選択や患者への説明指導が不十分となる場合があるとされている。 ・地域のかかりつけ医と専門医との積極的な連携による治療の質の向上と、保健師・薬剤師・管理栄養士等の多職種によるきめ細かな生活指導が重要であり、病院、医師会、市町村、関係団体等と連携した取組みを実施する必要がある。
<p>2025年度以降の改善について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の患者に適切な治療が提供されるよう、糖尿病や循環器病等に関する普及啓発に努める。 ・保険者の実情に応じた支援や受診勧奨・保健指導の質の向上に向けた支援を引き続き推進する。 ・地域のかかりつけ医と専門医との積極的な連携による治療の質の向上のため、かかりつけ医や専門医を対象とした普及啓発事業について、検討・実施する。

⑦ 高齢者の心身機能の低下等に起因した疾病予防・介護予防の推進に関する目標

目標	高齢者の心身機能の低下等に起因した疾病予防・介護予防の推進
2024年度の 取組・課題	<p>【取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市町村が行う介護予防事業等へ富山県地域リハビリテーション地域包括サポート支援センター及び協力機関からリハビリ職を派遣。 ・認知症に関する正しい知識と認知症の人に関する正しい理解を深めるための普及啓発イベントの実施。 ・職能団体等と連携した、高齢者の食支援に携わる関係者の連携推進及び人材育成に関する研修会等の開催。 ・地域高齢者の食支援を目的とした「配食サービス事業者一覧表」の整備。 ・各厚生センター管内での高齢者等の栄養・食生活支援に関する連携体制整備。 ・オーラルフレイル予防対策などの口腔機能の維持・向上に関する県民公開講座を実施。 ・市町村における高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施の取組みを推進するため、圏域単位での連絡会議や、セミナーの開催により、好事例の横展開や関係者間での地域課題の共有等を行い、効果的な取組みの推進を図った。 <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症に関する正しい知識と認知症の人に関する正しい理解の促進が必要。 ・認知症予防・早期診断・早期対応等を推進するとともに、診断後支援の充実が必要。 ・低栄養予防のための栄養摂取方法に関する普及啓発と、高齢者の食支援に携わる専門職種や企業等の関係者の連携による食環境整備の推進が必要。 ・口腔機能の維持・向上に関する知識についての普及啓発と県民一人ひとりの実践の促進が必要。 ・高齢者特有の多面的な健康課題に応じた疾病予防・介護予防の取組みには、医療関係者と介護関係者の連携が不可欠であることから、医療介護連携の推進支援が必要

2025年度以降の改善について

- ・「富山県認知症施策推進計画」に基づき、認知症とともに希望を持って生きるという「新しい認知症観」に立ち、認知症施策を展開。
- ・認知症疾患医療センターや市町村、関係機関等との連携により、認知症診断後の充実を図る。
- ・低栄養予防に関する普及啓発を継続的に行うとともに、高齢者の食支援に携わる関係者の連携推進及び人材育成に関する研修等の充実や、各厚生センター管内での連携体制整備の推進を図る。
- ・口腔機能の維持・向上に関する知識についての普及啓発を行うとともに、市町村や関係機関と連携し、介護予防事業とも一体となった取組みを推進する。
- ・引き続き、後期高齢者医療広域連合や市町村、地域の医療介護関係者と連携した取組みの推進により、高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施の効果的な推進を行う。

⑧ その他予防・健康づくりの推進に関する目標

<p>目標</p>	<p>ア 健康寿命の延伸 R14年度目標【富山県健康増進計画（第3次）】平均寿命の増加分を上回る健康寿命の増加</p> <p>イ がん検診 R14年度目標【富山県健康増進計画（第3次）】がん検診受診率：60%以上</p>
<p>2024年度の 取組・課題</p>	<p>【目標アに係る取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・富山県健康増進計画（第3次）に基づき、社会全体で健康寿命の延伸に向けた取組みを推進。 <p>【目標イに係る取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がん検診の受診率向上を図るため、節目年齢及び重点年齢者についてがん検診の自己負担額を軽減あるいは無料とする市町村に補助。 ・「がん検診受診促進月間」を設け、がん協定締結企業と連携した統一的な啓発活動を実施。 ・R6年度の新たな取組みとして、20～40代の女性を対象に、デジタル広告を活用した子宮頸がん検診の受診勧奨を実施。 <hr/> <p>【目標アに係る課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康寿命の最新値（R4年値）は、前回（R元年値）と比較し男女ともに短縮している。 (R元年：男性 72.71、女性 76.18 →R4年：男性 72.06、女性 75.63) <p>【目標イに係る課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がん検診受診率の最新値（令和4年値）は目標の60%に達していない状況である。 ・デジタル広告の効果測定を適切に行い、次年度に向けてより効果的な方法を検討する必要がある。
<p>2025年度以降の改善について</p>	<p>【目標アに係る改善】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・富山県健康増進計画（第3次）の進捗状況を「富山県健康づくり県民会議」等に定期的に報告し、施策への反映や必要に応じた計画の見直しを行う。 ・健康づくりに関する施策や取組みの進捗状況・成果は、県民に分かりやすく情報提供を行い、一層の県民の参画を図る。 <p>【目標イに係る改善】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市町村及び職域両方でのがん検診受診率向上のため、市町村、検診機関、協定締結企業等の関係機関と連携し、検診受診のさらなる普及啓発を図る。 ・デジタル広告による普及啓発について、SNS等を活用した効果的な方法を検討・実施する。

(2) 医療の効率的な提供の推進に関する目標

① 後発医薬品及びバイオ後続品の使用促進に関する数値目標

a. 後発医薬品の使用促進に関する数値目標（上段：数量ベース／下段：金額ベース）※どちらか一方でも可

2023年度 (計画の足下値)	第4期計画期間					
	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度 (目標値)
【数量ベース】 84.5%						
【金額ベース】 55.1%						
目標達成に 必要な数値	80%以上	80%以上	80%以上	80%以上	80%以上	80%以上
	56.8%	58.4%	60.1%	61.7%	63.4%	65%以上
2024年度の 取組・課題	<p>【取組】</p> <p>保険薬局や医薬品卸売販売業者に対して調査を行い、県内の数量シェアを推計して公表しているほか、安心使用促進のための普及啓発や環境整備、施策の評価や今後の方策を検討するための協議会開催等の取組みを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・富山県ジェネリック医薬品使用促進協議会の開催 ・医療関係者を対象としたジェネリック医薬品メーカー視察研修会の開催 ・県民向けリーフレットの配付、県民向け出前講座の実施、普及啓発広告の掲載（時刻表、無料情報誌） ・県内公的病院におけるジェネリック医薬品採用品目リストの作成 ・ジェネリック医薬品関係調査実施（県内数量シェアの推測） ・県内公的病院におけるジェネリック医薬品数量シェア調査 ・県内医薬品卸売販売業者におけるジェネリック医薬品市場流通実態調査 ・県内保険薬局における採用状況等調査 ・保険者協議会において、バイオ後続品を含む後発医薬品の認知度向上に向けて、県民や医療関係者向けの啓発資材を作成 					

	<p>【課題】</p> <p>本県における数量シェアは目標を達成している状況にあり、これを維持するよう引き続き取組みを推進する。</p> <p>金額シェアについても、数量シェアを維持しながら、置換により金額削減効果の大きいバイオ後続品を中心に、使用促進に向けた取組みを行う。</p>
2025年度以降の改善について	<ul style="list-style-type: none">・ 保険薬局における採用状況等調査の結果から、医療関係者の品質や供給に関する一定の不安感があることが伺えるため、研修会等を通じ不安の解消に努める。・ 各種広告媒体を利用した県民に対する普及啓発を引き続き実施する。

b. バイオ後続品の使用促進に関する数値目標

2023年度 (計画の足下値)	第4期計画期間					
	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度 (目標値)
29.4% (5/17成分)						
目標達成に 必要な数値	34.5%	39.6%	44.7%	49.8%	54.9%	80%以上置き換わった成分数を全体の成分数の 60%以上
2024年度の 取組・課題	<p>【取組】</p> <p>バイオシミラーに関する普及啓発や環境整備、施策の評価や今後の方策を検討するための協議会開催等の取組みを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・富山県ジェネリック医薬品使用促進協議会の開催 ・県民向けリーフレットの配付、県民向け出前講座の実施、普及啓発広告の掲載（時刻表、無料情報誌） ・県内医薬品卸売販売業者への市場流通実態調査 ・県内保険薬局への採用状況等調査 					
	<p>【課題】</p> <p>バイオシミラーはその特性や使用状況等から認知度は低いと考えられることから、バイオシミラーに関する普及啓発や環境整備等の取組みを引き続き推進する。</p>					
2025年度以降の改善につ いて	<ul style="list-style-type: none"> ・保険薬局における採用状況等調査の結果から、バイオシミラーの認知度が低いことが伺える。医療従事者による説明の円滑化に資するよう普及啓発を引き続き実施する。 					

② 医薬品の適正使用の推進に関する目標

目標	医薬品の適正使用
2024年度の 取組・課題	<p>【取組】</p> <p>・市町村における重複多剤投与者に対する取組支援や、県の健康づくりイベントにおいてポリファーマシーに関する普及啓発の実施、ポリファーマシー対策に向けた多職種連携の推進に関する研修会を行った。</p> <hr/> <p>【課題】</p> <p>重複多剤投与者の割合は増加傾向にあり、引き続き医療保険者や医療関係者の取組みや多職種連携の推進、県民への普及啓発に取り組む必要がある。</p>
2025年度以降の改善について	引き続き、研修会等の開催による多職種連携の推進を行い、ポリファーマシー対策の充実を図るほか、県民や医療関係者に向けたポリファーマシーに関する普及啓発に取り組む。

③ 医療資源の効果的・効率的な活用に関する目標

目標	医療資源の効果的・効率的な活用及び医療DXの推進
2024年度の 取組・課題	<p>【取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・富山県外来医療計画の推進（医療機器の効率的な活用を推進するため、医療機器の配置状況や共同利用状況を把握するとともに、地域医療構想調整会議で共同利用の状況の確認（実績の把握についても検討）を行うなど、各医療機関の自主的な取組みや医療機関相互の連携の促進） ・電子処方箋管理サービスの導入支援 ・医療機関へのサイバーセキュリティ対策への支援 <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電子処方箋管理サービスは他県と比較し、高い活用率ではあるものの、より一層の導入を促進する必要がある。 ・医療機関へのサイバーセキュリティ対策については、支援の活用状況等が低いため、認知度を上げる必要がある。
2025年度以降の改善について	電子処方箋管理サービスの導入支援や医療機関へのサイバーセキュリティ対策への支援の課題を改善するために、各施策に関する普及啓発をより一層取り組む。

④ 医療・介護の連携を通じた効果的・効率的なサービス提供の推進に関する目標

目標	医療・介護の連携を通じた効果的・効率的なサービス提供の推進
2024年度の 取組・課題	<p>【取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・富山県在宅医療支援センターの設置による在宅医療に取組む医師の確保、人材育成。 ・患者の状態に応じ、24時間対応できる体制を整備するため、在宅主治医相互の連携や在宅医療に取組む医師のグループ化等への支援。 ・富山県訪問看護総合支援センターの設置による訪問看護提供体制の安定化・機能強化。 ・医療・介護などの専門機関との連携や家族対応などを担うケアマネジャーの確保に努めるとともに、在宅医療を効果的にマネジメントする能力を高めるため、ケアマネジャーの在宅医療現場への体験を取り入れた研修の実施。 ・医療圏ごとに作成した入退院支援ルールに基づく病院とケアマネジャーの連携促進に関する連絡会等の開催。 ・在宅療養者の医療・介護情報をリアルタイムに共有・活用できる医療・介護情報共有システム整備支援。 <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅医療に取組む医師の確保・育成と在宅主治医相互の連携及び多職種連携による医療・介護サービス提供体制の充実が必要。 ・多様化する在宅医療のニーズに対応できるよう、訪問看護ステーションの強化と訪問看護師の確保・育成が必要。
2025年度以降の改善について	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅医療に取組む医師の育成・確保や多職種連携を推進。 ・新卒訪問看護師を含む訪問看護師の確保、質の向上を図る。

⑤ その他の医療の効率的な提供の推進に係る目標

目標	<p>ア 病床の機能分化・連携の推進 イ 介護人材の確保・養成</p>
<p>2024年度の 取組・課題</p>	<p>【アに関する取組】 地域医療介護総合確保基金を活用した病床機能再編や回復期機能病床の確保に向けた支援</p> <p>【イに関する取組】 「県福祉人材確保対策会議」の構成団体と連携しながら、①掘り起こし、③教育・養成、③確保、④定着を4本柱として、若者等への介護の魅力PRや就労支援、職場定着支援などの施策に取り組んだ。 R6年度の新たな取組として、具体的には、高校生を対象とし、賃金と交通費を支給する有償インターンシップのほか、外国人介護人材未採用施設のマッチング支援を実施した。</p> <hr/> <p>【アに関する課題】 地域医療構想の病床機能ごとの必要病床数の確保に向けた更なる推進</p> <p>【イに関する課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イメージアップため、時代の変化やターゲットに応じた情報発信が必要（SNSの活用等） ・職員の負担軽減のため、介護ロボットやICTの活用の一層の推進が必要 ・国内での確保競争が厳しくなっている外国人人材の受入・定着に関しても引き続き支援が必要
<p>2025年度以降の改善について</p>	<p>【アに関する改善】 医療の需要・供給データ、介護保険データ等に基づいた二次医療圏ごとで確保すべき医療機能等について、地域医療構想調整会議等での協議</p> <p>【イに関する改善】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若年層へアプローチするためSNSを活用した情報発信を実施していくなど、介護現場のイメージアップに取り組む。 ・介護現場の負担軽減とサービスの質の向上を図るため介護ロボット・ICTの導入や、外国人介護人材を受入るための環境整備等の支援など、介護職を目指す若者や外国人など多様な人材の参入に取り組む。

2. 保険者等、医療機関その他の関係者の連携及び協力に関する評価

<p>2024年度の 取組・課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保険者協議会において、特定健康診査周知ポスター等を作成し、県内医療保険者及び健診実施機関等に配布した。また、個別健診の集合契約による実施体制整備に向けた支援、医療保険者、健診・保健指導実施機関等を対象にした研修会や情報共有・好事例の横展開等を目的とした会議等を開催した。 ・保険者協議会における医療費分析事業として、NDBデータセットを活用し、県内医療保険者における生活習慣病関連の受療率・医療費等の分析を行い、結果の還元を行った。 ・全国健康保険協会富山支部と県内市町村国保の特定健診データを統合させ、生活習慣病のリスク因子ごとの地域差を見える化し、保険者協議会にて共有を図った。 ・圏域（厚生センター（保健所）単位）において、地域保健・職域保健が連携し、各機関の取組みや管内の健康課題の共有を図り、課題解決に向けた取組みの検討を行った。
<p>2025年度以降の改善について</p>	<p>引き続き、保険者協議会として、県内医療保険者間での連携した取組みの充実とともに、圏域単位での地域保健・職域保健の関係機関が協働で取組む体制づくりの構築を図る必要がある。</p>

3. 医療費の実績に関する評価

2023年度 (計画の足元値)	2024年度
3,607億円	
医療費適正化に係る取組を行わない場合の推計医療費	3,665億円
医療費適正化に係る取組を行った場合の推計医療費	3,636億円

4. その他の事項に関する評価

--